

白馬岳山行報告書

(山域) 北アルプス北部

(コース) 猿倉荘～白馬尻～大雪渓～白馬山荘～白馬岳山頂～猿倉荘

(日時) 5月28日(土曜日)

(天候) 晴れ

(山行タイム) 猿倉荘 7:30～白馬尻 8:25～白馬山荘 12:15～山頂 13:15～猿倉荘 17:00

(参加者) CL: 内堀(記録)・小宮山

(山行報告)

5/27 金曜日の夜、京成津田沼駅で待合わせして、小宮山さんの車で首都高・関越道から、長野道に進み、長野ICで降りてオリンピック道路を進み、ようやくサンサンパーク白馬にて仮眠する。今回は遠いなと思い。ビールを飲んだ後、深い眠りに入り、気が付いたら6:00になっており、慌てて出発して、猿倉荘を目指す。猿倉荘に到着したのが、6:50頃で早く出発したいと、準備を済ませ、朝食を取る。ようやく落ち着き周りを見渡すと、松沢貞逸開山日のため人がかなり入り込んでいました。この方は、白馬山荘を建て、宗教登山から一般登山を広めた方であります。出発準備を整え、いざ出発、あれ昔(36年前)は林道から入った記憶。登山道があり、地図を見てしまいました。間違いなさそうである。槍温泉の道を超えると林道から山道に変わり、白馬尻に到着する頃には雪渓が私達を迎えてくれた。途中、韓国から来た集団と挨拶を交して過ぎ去る。白馬尻小屋(営業していなかった。)でアイゼンとヘルメットを装着して出発する。

白馬の大雪渓は先のコルまで見渡せ、長い道のりが一目でわかるため、進んでいないことが判り疲れが出てしまう。初めの2時間で標高差900m程度登り、傾斜が強くなると少し鈍化してお花畑の上側でアイゼンを外す。その後は、只ひたすら登り続け、頂上小屋に到着。小屋は営業していなかった。テンパには何張か幕営していた。その先も歩き続け、稜線に出た所で、雷鳥が目前にいた。小宮山さんはカメラを近づけ何枚か撮っていた。ここの雷鳥は逃げなかった。直ぐ先は、白馬山荘である。ここは営業を開始しており、何組かはベンチで昼食を取っていた。私達もお湯を沸かし少し長い昼食タイムとする。落ち着いたところで、山頂目指して出発開始、ガレ場を少しずつ登ると15分程度で山頂に到着する。山頂からは雲が掛っているものの、剣・立山・白馬三山が顔を出している。雪倉・朝日岳方面は残念ながら見えていない。山頂の展望指示板を見て、昔読んだ新田次郎の「強力伝」を思い出す。デカイな。本当に人が運んだのかと不思議である。

「昭和16年に富士山の強力、小見山正らが青銅の展望図指示板を担ぎ上げたことは有名なお話である。」今度白馬岳に行った時には観察してほしい。山頂で記念撮影と周りの景色を堪能した後は、急いで下山して白馬山荘にてトイレを借りる。本日、開山祭のため、何とタダであった。記念にとバンダナを購入して下山する。頂上小屋を過ぎ、雪渓前でアイゼンを装着して下山開始する。本日の標高差1700mを一日で降り下るのは結構しんどい。途中より急斜面が出て来て疲労が増大する。ピッケルとアイゼンを使い何とか急斜面を降りると、そこからは、長く緩い斜面が続く。日帰りは我々が最後と思っていたが、スキーヤーがアツと言う間に降りて行った。良いね。早いよ。ようやく白馬尻についてアイゼンを外しホットして、トイレ休憩後、猿倉荘を目指す。今の時間は結構明るい。途中、猿の集団を見てしまい。怖かった。

何とか猿倉荘に到着して、細い道を下り白馬の温泉に入り、帰業した。1日が長かった。疲れた。





—以上—